

# 自治体における Webアクセシビリティ普及の方策

## Check&ActionでWebアクセシビリティの向上を

### Webアクセシビリティとは

あくまでWebサイトの作り方の一側面に過ぎない。

製品品質の向上や業務改善の現場で広く用いられている

PDCAマネジメント・サイクルを適切に取り入れることができれば  
アクセシブルなWebサイトへと近づけていくことができる。

### 関根千佳 = 文

ユーディット 代表取締役  
情報のユニバーサルデザイン研究所



## Checkでアクセシビリティを検証する

前回は、Web構築におけるPDCA (Plan-Do-Check-Action) マネジメント・サイクルのうち、PとDについて解説した。プランの作成と実行でアクセシビリティの実現を図ったら、次は「C (Check、評価)」のフェーズへ進もう。この作業では、各種ツールを利用するだけでなく、実際に住民ユーザーに操作・評価してもらう必要がある。Webアクセシビリティの検証は、このどちらが欠けても十分でないことを知ってほしい。

まずツールによるチェック方法から見ていこう。HTMLの文法チェックから、WebアクセシビリティJISの検証まで、以下に示すようなツールを利用できる。

### Another HTML-lint

日本語対応のHTMLチェッカー。

<http://openlab.jp/k16/htmlhint/>

### Web Accessibility Toolbar 1.2 日本語版

Windows版Internet Explorerのツールバーに組み込

まれる無償のチェッカー・ツール。

<http://html.idena.jp/atb.html>

### aDesigner

IBMが提供するチェッカー・ツール。入手先が英語サイトのみでユーザー登録の必要もある。日本語Webサイトからも入手できるように希望したい。

[http://www.trl.ibm.com/projects/acc\\_tech/adesigner.htm](http://www.trl.ibm.com/projects/acc_tech/adesigner.htm)

また、目の不自由な人が利用する音声ブラウザでもチェックしておこう。代表的な音声ブラウザである「ホームページ・リーダー (日本IBM)」と「PC-Talker (高知システム開発)」では、読み上げ方が微妙に異なるが、とりあえずどちらかに読ませてみて、二重読みなどの基本的な部分をチェックしよう。

## ユーザー評価で実際の操作感を確認する

次に、ユーザーの操作による評価となるが、これは地域の障害者NPOなどに協力してもらい、アクセシブルである



### eふおらむ (http://www.e-forum.jp/)

障害を持つ人がITを活用し、  
社会参加および就労できるための情報サイト



### 日本IBM「aDesigner」

日本語対応版も入手可能だが、ダウンロード・サイトが英語表記であるなど、  
入手時のアクセシビリティの向上に期待したい

かどうかを確認してもらおうとよいだろう。実際にアクセシブルなWebサイトを完成させたと思っていても、第三者が利用してみると案外そうでなかったりするものだ。ここで重要なことは、Planの時点でユーザー評価に参加した住民などにも、改めて評価作業に加わってもらうことだ。Planの際に構築者のアクセシビリティへの姿勢を知ったユーザーは、そのWebサイトがより良いものへと改善されることを期待している。そのため、Check時点の評価でも忌憚のない意見を提供してくれるだろう。これらを経験すれば、情報が必要な人にきちんと情報が伝わることの重要性が理解できるはずだ。

ユーザー評価を任せられるNPOなどが地域に存在しないこともあるだろう。三重県のように、県レベルで障害者NPOを育成していれば、県下の各市町村はWebサイトのオンライン評価を依頼することもできる。各都道府県では最低でも1つの障害者NPOを育成し、各市町村がそこにWebアクセシビリティのユーザー評価を依頼できるようにしたい。将来的には、そのNPOの協力の下、市町村でも同様のNPOを育成し評価に加わってもらう。オンライン環境を構築できれば、ネットワークを介して視聴覚や運動機能など、多くの障害者の協力を得ることができる。

リタイアした住民も有力な助っ人になる。実際に、横浜

市ではシニアのNPOがすべての区のWebアクセシビリティをチェックし、その結果をネット上に公表したことがある。その後、瞬く間に各区がWebサイトの改善に着手したという。

### PDCAサイクルを回して常に改善を

PDCAの最後の作業が「Action(改善)」である。この段階では、「Check(評価)」の結果、明確になった課題を修正し、ガイドラインや更新手順の見直しなどを行う。首長への報告もこの時点で行い、次の計画への理解を求めておきたい。Web構築もアクセシビリティへの対処も、連続したシステム開発の一環である。西暦2000年問題対応のような一過性の改善ではなく、常に連続する絶え間ない改良のプロセスが良い結果をもたらすのだ。

多くの自治体では、Webサイトの大幅なリニューアルを3年単位で計画しているようだが、その期間中も職員研修や情報の共有など、地道な改善を積み重ねることによって、初めて次のプランへと活かされていく。このPDCAサイクルをスパイラルに回していくことは、ヒューマン・センタード・デザインを規定したISO13407への準拠にもつながることなのだ。

